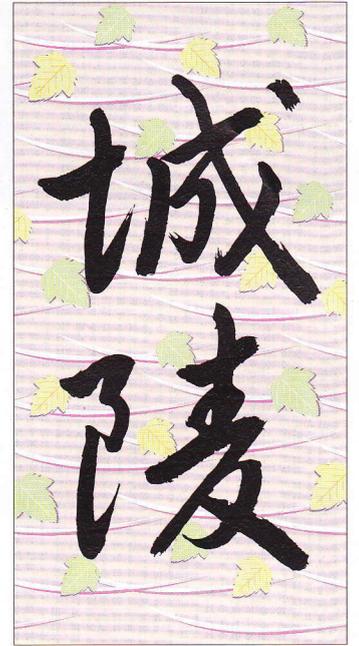


恵那高創立90周年記念事業 実行委員会が始動!



— 第11号 —

発行/岐阜県立恵那高等学校同窓会
所在地/岐阜県恵那市大井町1023-1
〒509-7201
TEL・FAX: 0573-25-0253
E-mail: enako-ds@enat.org
発行責任者 市川 康夫

創立90周年

記念事業に向けて

昨年の夏より準備始まる

平成22年8月22日(日)午後、花の木会館において同窓会理事会が開かれました。来るべき平成24年度の恵那高校創立90周年に向けての準備のためです。

実行委員21名を中心に

平成22年11月6日(土)の午後には、再度同窓会本部役員と各回生の理事が花の木会館に集まり、恵那高校創立90周年記念事業に向けての、全体会議も持ちました。この中で実行組織が確認され、市川康夫同窓会長を実行委員長、成瀬正樹校長と阿部伸一郎同窓会副会長を実行副委員長として、記念事業を中核となつて推進する実行委員会が立ち上げられました。

この実行委員には、東京、名古屋、土岐、瑞浪、中津川、恵

那、定時制の各支部を代表する同窓会本会の副会長に加え、新たに地元で活躍していただける方々に式典、懇親会、財務、記念事業、記念誌・名簿作成、の5つの委員会の長として加わっていただき、本校のPTA役員代表、事務局の教職員代表と合わせて総勢21名の体制が発足しました。

記念事業の内容が決定

以来、昨年11月22日の第1回実行委員会を皮切りに、2月、4月、5月と、すでに4回にわたつて会合がもたれ、本紙3面に掲載された阿部実行副委員長の「城陵論壇」にも述べられていたホームカミングデーの実施や、同封の「創立90周年記念事業趣意書」に紹介されている屋内トレーニング施設の建設などが、従来の周年事業でも行われてきた式典の挙行、懇親会の開催、記念誌出版、名簿発刊に加えて推進されることになりました。

なつかしの旧校舎、取り壊しへ

H22年9月第2棟(理科教室棟)から撤去



グラウンドに出現した仮設校舎

前号でご案内いたしましたように2010(平成22)年度から始まつた母校の校舎新築工事がいよいよ昨年夏、二棟(理科教室棟)の仮設校舎引越しを皮切りに、旧校舎取り壊しへと本格化してきました。写真をご覧ください。



第2棟取り壊し工事の様子

同窓会報「城陵」について

平成13年より母校の創立80周年記念事業に向けて発行が始まつた本紙は、第4号まで全会員にお届けして80周年記念事業を推進してまいりましたが、発行費用が不足したために第7号まで協力金を頂戴した方のみにお届けし、その後次第に発行部数を増やして前号で一万部強を発送するまでになりました。今回の11号では、創立90周年に向けて再度全会員にお届けすることにしましたが、費用は90周年記念事業の一部としてまかなわれますので、是非記念事業への御協力を賜りたく存じます。

平成22年度創立記念講演会

『恩師の一言、過言、外国生活の思い出、弁護士生活など』

弁護士 榊原 章夫 先生

平成22年5月28日(金)の午後、恵那高校11回生(昭和34年3月卒業)榊原章夫先生が、「恩師の一言、過言、外国生活の思い出、弁護士生活など」という演題で講演をしてくださいました。

先生は名古屋大学経済学部経済学科及び同大学法学部法律学科を卒業され、昭和49年に司法試験に合格された後、昭和52年から弁護士活動をしておられます。その間、昭和54年から57年には実務研修のため渡米され、また昭和58年には榊原章夫法律事務所を開設され、平成16年には弁護士法人「清和」を設立しておられます。

その間、商事、会社関係、民事相続、国際取引、技術提携、合弁会社、英文契約書作成などに携わってこられました。また委員として、日本弁護士連合会、国際交流委員会・外国弁護士及び国際法律業務委員会、外国法事務弁護士懲戒委員会などとともに、恵那市法律相談相談員・恵那市情報公開・個人情報保護審査会会長など多数の委員を歴任しておられます。また、講演・著作も多数あります。

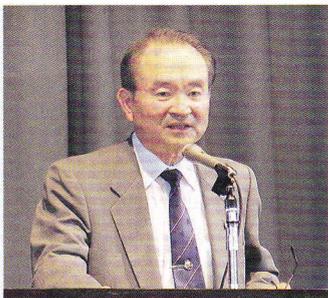
恩師の一言では「Good morning sir」「多弁は出世しないぞ」「外股で歩け」

などのお話がありました。また外国生活の思い出として、「旅行での失敗」「仕事」「第二の母?」「日系レストランで」「ゴルフ場」など、数々の経験から得たことなどについて、気さくにお話をしてくださいました。

一方、過言の思い出として「それは自画自賛です」「同じ名字でも髪が薄い」「係長は格好つけとる」「許可を貰っても遠慮せよ」「お前がこうしたから、こうなったのだぞ」といったお話をいただきました。

さらに「日弁連外弁委員会」があるアメリカ人弁護士のタイプと日本の外交のお話もいただきました。

諸外国との法律事務の最前線に立っておられる榊原先生のお話は、その仕事の厳しさとともに楽しさを感じることができ、後輩にとつても興味深くかつ大変示唆に富むお話をうかがうことができました。



新校舎の建築始まる

本年度より旧二棟跡地と

中庭にコンクリート注入開始



埋め戻し



土間配筋



土間コンクリート打設状況



土間コンクリート打設



5月末状況



1階 鉄筋・型枠組立

【お問い合わせ先】 工事についてお気付きの点などお気軽にお問い合わせ下さい。
TEL 0573-22-9091 FAX 0573-22-9092



城陵論壇

卒業から早30有余年。その年月が過ぎ去るのと、まるで反比例するかのようにより母校への愛着と感謝の念が増してくる。そんな思いのする今日この頃です。時折、校庭に立ち視線をゆつくりと校舎に、続いてグラウンドに、周囲の景色にと移してゆくと、そこでの3年間の思い出とともに恩師や同僚の顔が懐かしく甦って来ます。

はじめに平成23年3月11日に発生した東日本震災により、亡くなられた皆様に対し哀悼の意を表しますとともに、被災された東北関東地方各県の皆様に心からお見舞いを申し上げます。一日も早い復興が実現できますよう、力をあわせて参りたいと思います。盛夏の候、同窓生の皆様方には益々ご健勝で活躍のことと拝察いたします。日頃から本校の教育活動に多大なご支援を賜り、学校を代表して厚くお礼申し上げます。本校は生徒の体力・精神力を鍛え、また学力を引き上げるとともに逞しい生徒を育てることを理念とした「一流の進学校プラン」に基づき、質の高い恵那高等学校の教育活動を推進しています。現在の学校の様子を以下の視点から

委員会では、平成24年11月10日を記念式典開催日と定め、現在その準備を急ピッチで進めております。

ここで同窓会に対するご理解を深めていただきたく、その組織を簡単に説明致します。一口に同窓会と表現しておりますが、本会と支部から構成されております。この支部とは東京、名古屋、土岐、瑞浪、中津川、恵那の6つの地域と、定時制組織を合わせた7つから成り、地域的な活動は、各支部単位で行われております。卒業年次も、その後の人生においても様々な道を

から紹介させていただきます。学習指導においては、基本的な学習習慣を身に付けさせることを第一とし、生徒が努力する意欲を持つことが大切であると考えています。授業においては説明や正解だけの講義ではなく、予習復習を前提とした正解を導く仕組みや普遍的な解法を理解させ、学力を引き上げる工夫をしています。大学入試問題については河合塾や旺文社の正解が真に正しいか教科会で検討しています。平成22年度大学進学実績では名古屋大学14人をはじめとして、国公立大学に150人が合格しました。経済不況で国公立大学への志向が強まる中、生徒は3月12日以降の国公立大学後期試験までよく健闘しました。生活指導においては、生徒は「社会の構成員」として規範意識を高め、礼儀を身に付け、挨拶と掃除を確実に実行しています。服

歩んだ者が、同じ城陵の地で学んだという、ただその1つの共通項をもって、それぞれが住むまちで一同に会するという価値ある活動



阿部伸一郎
同窓会副会長

を7つの支部で展開しております。そして、そうした各支部の活動を集束し唇歯輔車の関係へと構築して行くこと

が本会の使命であります。今後は、今までもまして本会と支部の行き来を密にし、各地に根付いた活動と本会との融合を図り、来年

創立90周年に向けて

の90周年、そして、その先にある100周年に向け、より愛着の持てる母校とすべく努力を重ねてゆく所存であります。

また、来年には新校舎が完成します。ご承知のように現在の校舎は昭和38年の火災後に建て替えられました。それから既に半世紀。

耐震性等の面で近代の仕様に合致しているとは言い難く、新校舎の建設は長年待ち望んでいたものでした。昨年11月10日の式典はあえ

装ではいつも面接試験が受けられるよう身だしなみを整えています。特に女のスカート丈は恵那地区では模範的な姿であると賞賛されるようになりました。また生活の向上を目指し2年生家庭科では、全国高等学校

技体を向上させています。復興のシンボル大会として8月に開催される平成23年度全国高等学校総合体育大会「北東北総体」には、ポルト部が男子ダブルスカルと女子シングルスカルで出場します。また放送部は福島

競技で全国大会に、音楽部と演劇部が中部大会に、軟式野球部が東海大会Bゾーンで優勝、陸上競技部、女子硬式テニス部、ポルト部が東海大会に出場するなど、全校挙げて部活動に取り組み、優れた成績を上げています。



「一流の進学校」プラン実現へ
恵那高等学校校長 成瀬正樹

校技術検定食物調理4級の資格試験に学年生徒全員が挑戦しています。部活動指導においては、年度初めには生徒部長会議を開催し部長としての責任を自覚させるなど、顧問が確実に集団を指導し心

県で同月に開催される全国高等学校総合文化祭「ふくしま総文」にアナウンス部門で、東京都で開催される全国高校放送コンテストではアナウンス部門と朗読部門で出場します。他にも2年生男子がスピードスケート

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業は、文部科学省の委託を受けた独立行政法人科学技術振興機構(STI)が高等学校の理科・数学・国際教育を推進するもので、本校は平成16年度から3年間また平成

19年度から5年間の指定を受けました。本年度は2期目の最終年度となり、研究・学習の成果を全国に向けて発信します。生徒は科学的ものの見方が出来るようになり、将来の進路決定に有効な判断材料となつていきます。本校は昭和45年に理数科を設けた恵那地区理数教育の中心となる高等学校であり、極めて教育効果の高い事業であることから、平成24年度以降も継続し実施できるように計画を策定し申請する予定です。平成23年度恵那高等学校は「一流の進学校」として、職員生徒は優秀な卒業生を輩り越える「超昇先輩」の気持ちで、学習や部活動に積極的に取り組む「躍進の年」としたいと考えています。同窓生の皆様方には引き続きご指導・ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

母校のトピックス



2年沖繩へ

修学旅行(6月)

2年生の修学旅行は、毎年、沖縄の梅雨が明ける6



月末に実施されている。1日目は、ひめゆり資料館、平和記念資料館、糸数壕を回り、2日目は班別研修、3日目はクラス別研修、4日目は首里城を見学して帰ってくる。本校生は、総合的な学習の時間において、1年生の冬休み明けから沖縄について調べる。その後テーマごとに、班に分かれ調査を続け、調べたことに対し、修学旅行の2日目で実際に検証することとなっている。

三国志を人形劇で

芸術鑑賞会(10月)

本年度の芸術鑑賞会は、10月20日、恵那文化センター大ホールにて、日本・中国共同制作 精巧大型人形劇「三国志」総集編を鑑賞した。

三顧の礼、赤壁の戦い、甘露寺の宴、出師の表、空城の計、五丈原など、数々の名場面を、一・二メートルの大型人形が余すところなく描く三国志作品であった。人形は人形美術家の川本喜八郎氏の手になるもので、その人形が中国の人形遣いの方々の手によって、生き生きと演じられた。また、声優も、橋爪功など一

流の俳優陣であり、大変見応えのあるすばらしい作品であった。



社会人から学ぶ

職業講話(11月)

1年生対象に職業講話が行われた。機械技術者、脚本家・プロデューサー、デザイナー、心理カウンセラーなど13講座10名の講師が恵那高校を訪問し、自分の職業について、どうしてその仕事を選んだか、どんなときにやりがいを感じるか、これから高校生としてやっておくべきことは、などについて語った。医師としての講話をした、蜂谷医院の蜂谷明子氏は「医師は毎日勉強の連続である。医

師になるためには、学校の学習も大切だが、人とコミュニケーションをとる能力などを磨いておくことも不可欠だ。」などと語った。

女性科学者として

SSH全校科学講演会

(11月)

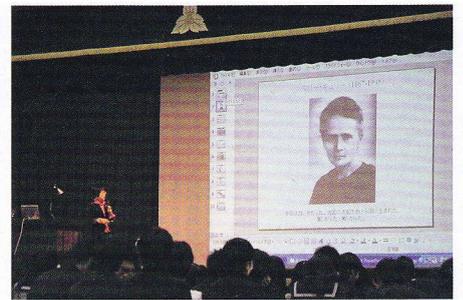
毎年、SSH事業の一環として全校生徒を対象に科学講演会を行っている。今年度は、女性科学史研究の第一人者で、名古屋工業大学大学院、工学教育総合センターの川島慶子准教授が講演した。「マリー・キュリー」のキャリアから見た20世紀の科学とジェンダー」と題した講演では当時のヨーロッパ社会は女性の活躍の場は閉ざされ、マリー・キュリーは苦勞の連続の人生だったが、自分の高い意志を貫き通したことや、現在の大学での各学部の男女比のグラフを紹介し、男子が理系、女子が文系という考え方は昭和中期の考え方と話された。生徒たちは自身の進路、女性の社会進出の背景について考える良い機会となった。



センター試験会場に 激励の横断幕

(1月)

今年度は232名の恵那高生が中京学院大学にてセンター試験を受験した。当日は降雪があり、生徒より



一時間ほど早く到着した職員による雪かきから作業が始まった。
8時15分着のバスで到着した生徒たちは、同窓会から贈られたキットカット(きつと勝つぞ)と職員からの激励の言葉を受け取り、そして、同じく同窓会から寄付された「頑張れ!! 恵那高等学校」の横断幕の下を通過して各会場に向かった。

国立大学合格者数 現役卒業生の半数超え

今春の大学入試(3月)

平成22年度大学入試において今春の現役受験生はすばらしい成果をあげた。詳細は次ページを参照。

ここ数年、京都大学、大阪大学、あるいは国公立大学医学部といった難関大学をはじめとして、岐阜大学、信州大学など中部圏を中心とした多くの国立大学に合格している。

なかでも名古屋大学は、ここ3年間連続して14名の合格者を出している。

「最後の最後まであきらめない」という恵那高校生の姿勢がこういった成果に結びついている。

卒業生のおもな合格先—過去3年間—

※現役生合格者と過年度生合格者の合計数。()内は過年度生合格者の内訳数

国立大学

大学名	年度	平成22	平成21	平成20
北海道				1
北海道教育		1		1 (1)
北見工業		1		
岩手		1		
東北			1	
山形				1 (1)
福島				1
茨城		2	1	
筑波		5 (1)		5
宇都宮				1
埼玉		1		1
千葉			2	2
東京農工		1		
東京学芸		1		
東京海洋		1	1	
一橋		1 (1)		1 (1)
横浜国立		3	2	1 (1)
新潟		3	1	
富山		8	5	5
金沢		4	7	4
福井		1	3	1
山梨		1 (1)	1	6 (1)
信州		9	9 (1)	16
静岡		8	10 (1)	3 (1)
浜松医		1	2	1
愛知教育		4	1	
名古屋		14	14 (1)	14 (1)
名古屋工業		5	4	5
岐阜		12 (1)	14	18 (1)
三重		1	1	2
京都			1	
京都教育		1	2	1
大阪		1	2	2 (1)
奈良女子		1	1	
和歌山			1	
神戸				1
鳥取			1	
島根			3	
広島		1		1
高知			1	
愛媛			1	
大分		1		
鹿屋体育			1	

私立大学

大学名	年度	平成22	平成21	平成20
愛知		6	6 (1)	20
愛知医科		3	4	4
愛知学院		9	5	6
愛知学泉		1		
愛知東邦			1	
愛知工業		7 (1)	7	9
愛知淑徳		10	14	12
愛知文教				1
愛知工科		5 (2)		
南山		23 (1)	22 (3)	26 (1)
中京		16	14	21
中京学院		3		
中部		24	27	33
中部学院		2	1	
名城		40 (1)	35 (2)	46
名古屋外国語		10	7	4
名古屋学院		2	2	3
名古屋学芸		5	9	5
名古屋芸術		1	1	
名古屋女子		5	6	
名古屋商科		1	4	3
名古屋造形芸術				4
名古屋音楽				1
常葉学園			3	
東海学園		2		1
相山学園		4	4	2
皇学館				2
星城			1	2
桜花学園		1	1	
金城学院		8	9	14
豊橋創造				1
豊田工業				1
大同 (旧 大同工業)		5	2	1
岐阜医療科学		2 (1)	1	2
岐阜聖徳学園		7	5	4
岐阜女子		1		
四日市看護医療			1	
静岡文化芸術				2
金沢工業		5 (2)	6	

公立大学

大学名	年度	平成22	平成21	平成20
会津		1 (1)		
高崎経済		1	1	
首都大学東京		2 (1)	2 (1)	1 (1)
横浜国立		1		2 (1)
神奈川県立保健衛生			2 (1)	
埼玉県立				1
新潟県立		3		1
金沢市立美術工芸			1	
富山県立			2	
福井県立		3		1
都留文科		2	2	1
群馬県立女子		1		
山梨県立		3		1
岐阜県立看護		1	3	2
岐阜薬科		1	2	1 (1)
静岡県立		1	1	2
静岡文化芸術		2	1	2
愛知県立		5	5	3
名古屋市立		3	2	4
三重県立看護			3	
滋賀県立		1		
京都府立		1		1 (1)
京都市立芸術			1	
大阪市立				1 (1)
大阪府立		1	1 (1)	3
和歌山県立医科			1	
神戸市外国語		1	1	1
兵庫県立		1	1	
岡山県立		1		1
福山市立		1		
高知工科			2	
下関市立				1
長崎県立				1
福岡女子			1	

大学校

大学名	年度	平成22	平成21	平成20
防衛大学校		1		

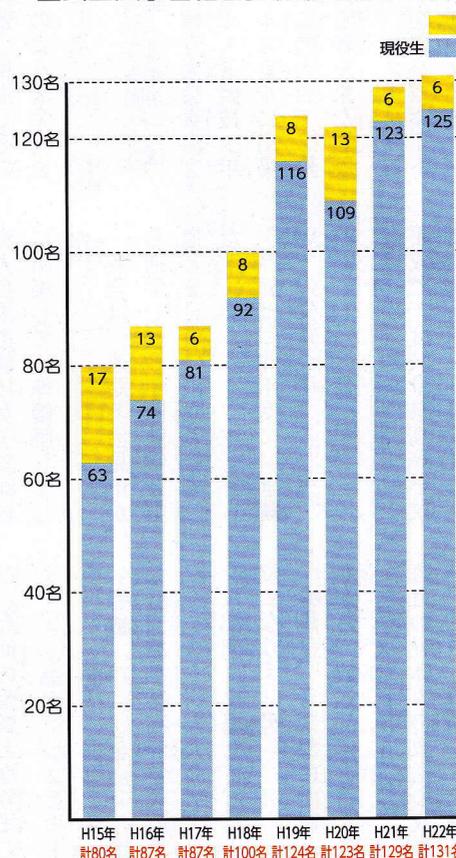
私立大学

大学名	年度	平成22	平成21	平成20
日本福祉		1	1	4
鈴鹿医療科学				4
藤田保健衛生		7 (1)	8	13
川崎医科福祉				1
酪農学園		1 (1)		
同志社		4 (2)	2 (1)	4
同志社女子			1	1
立命館		15	16 (1)	13
関西学院				2
関西		1	5	2
関西外国語		3		1
花園			1	
関西福祉科学				1
京都外国語		3	1	1
京都学園			1	
京都橘				4
京都産業				1 (1)
京都女子		2	2	
龍谷		1 (1)	1	
近畿		5	3	2
佛教		1		
大阪芸術		1		
神戸女学院			1	
神戸常盤			2	
大阪大谷			1	
岡山理科		1	1 (1)	
千葉工業		1		1
鳥取環境		1 (1)		
福岡		1 (1)		
久留米		1		
兵庫				1
西南学院			3	
東北公益文科		1	2	
大谷			1	
明星				1
長浜バイオ			1	
藍野				1
明治国際医療				2
昭和音楽				1
昭和女子			1	

私立大学

大学名	年度	平成22	平成21	平成20
早稲田		8 (1)	1	4 (1)
慶應義塾		4	1	1
明治学院		2		
明治		1 (1)	7	6
青山学院		1	2	
立教		1		
中央			1	2
法政			6	4
駒澤		1	7 (4)	1
國學院				2
成蹊			2	1
専修		2	1	
東京理科		1	3 (1)	2 (1)
東京都市				2
東京農業		4	2 (1)	2
東海		1	1	1
東洋				1 (1)
日本		4 (1)	5 (1)	2 (1)
日本体育		1		1
日本歯科				2
日本女子				2
東京電機			1	1
東京家政			1	
東京工科		1 (1)	2	1
獨協				1
獨協医科		1 (1)		
国士館			2	
国立音楽			1	1
順天堂				1
創価			5	
北里			2	2
川崎医科		1 (1)		
帝京		1 (1)		2
帝京平成		1		
神奈川			5 (3)	1
神奈川工科				1
芝浦工業			1	
流通経済			1	
武蔵野				2
武蔵野美術		1 (1)	2	
多摩美術			2	
国際武道			1	
東京造形		1		

国立大学合格者推移(過去8年間)

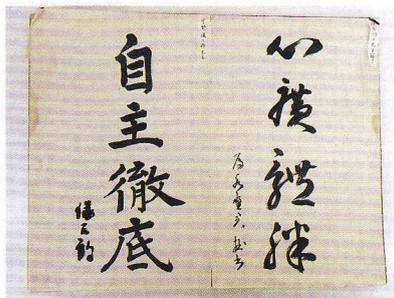




数年前、中学22回生の水野守夫さんから寄贈を受けた恩師筆跡帖を紹介しました。卒業にあたって母校の先生方に書いていただいたもので、今風にいえばサイン帳ともいえるかもしれませんが、工夫を凝らした達筆から、当時の先生方がこころしたものを常々揮毫されていたことが偲ばれます。教養人としての当時の先生方の姿が目に浮かぶようです。

90年の軌跡①

『恩師筆跡帖』の寄贈をうける



(写真は当時の伊藤拙二先生、宇野儀三郎先生、幸脇多聞先生、柳ヶ瀬一郎先生、小木曾茂先生、西尾郷平先生の筆跡です。さて、どの筆跡がどの先生のものでしょうか。)

平成22年度 Student of the Year 賞

5名の生徒が輝く!

今年度本校に在学する生徒の中で、最も顕著な活躍が認められた生徒を表彰する、「Student of the Year 賞」の表彰式が、平成23年2月28日(月)14時から、恵那高校第一体育館で、全校生徒・職員の前で行われました。

この表彰は、平成19年度から同窓会が行っている事業の一つで、表彰式には市川康夫会長の出席を得て、会長から表彰状・時計付きクリスタル楯が、それぞれの生徒に手渡されました。

表彰された生徒は、次の通りです。

早川正也(3年生)は、第58回岐阜県高等学校総合体育大会陸上競技男子400mハードルに出場して、見事に優勝しました。

早川は、陸上部のキャプテンとして部をまとめながら、日々練習に精進しその成果が、このような栄光をもたらしました。

吉村優里(3年生)は、第31回国民体育大会東海ブロック大会ボート競技少年女子シングルスカルに出場して、昨年この大会で2位に甘んじた雪辱を果たし優勝しました。

吉村は、恵那高校ボート部創部以来初の女子キャプ

テンとして、自ら厳しいトレーニングを課し、部の模範となり活躍しました。

各務 南(3年生)は、第57回東海高等学校総合体育大会柔道競技女子52kg級に出場して、準優勝しました。

各務は、遠路多治見市から通学し、3年間勉学と柔道とを見事に両立させました。

今回は、昨年度に引き続いての受賞となりました。

二林佳奈子(2年生)は、平成22年度岐阜県高等学校新人大会ボート競技女子シン

各務は、遠路多治見市から通学し、3年間勉学と柔道とを見事に両立させました。

今回は、昨年度に引き続いての受賞となりました。

寺嶋 彩(2年生)は、第31回岐阜県高等学校放送コンテスト新人大会アナウンス部門に出場して、第1位になりました。

寺嶋は、音楽部に所属しながら、放送部にも籍を置いている異色の生徒です。毎日の昼休みの放送の成果が、見事に結実しました。

二林は、今年頭角を現してきた選手の人で、将来が有望視されています。日々の練習の成果が実を結び、今回の受賞となりました。

寺嶋は、今年頭角を現してきた選手の人で、将来が有望視されています。日々の練習の成果が実を結び、今回の受賞となりました。



月末に恵那高体育館にて表彰式

福島原発事故で注目の

関村直人(高29回)

東大教授



平成23年3月11日に東日本をおそった大地震は、今も多くの被災者の方々に辛い生活を強いています。それが、それにもまして人々を苦難に陥れているのが福島第一原発の予断を許さない状況です。あの原発事故の発生当初、NHKニュースで頻繁に専門家として解説をされていたのが、母校の同窓生で高校29回卒の関



村直人さんです。関村さんは恵那高校理数科から東京大学に進学され、現在は東大大学院工学系研究科でシステム量子工学の講座を持たれるとともに、副研究科長としてご活躍中で、特に原子炉などの構造について造詣が深く、先頃のニュース解説を担当されたようです。その後、原発事故対策は困難が続いているようですが、今後日本の原発のあり方を再構築していく上でまた関村さんにご活躍されることを同窓生として応援していきたいものです。

同窓会総会に百余名の参加者

90周年に向けてまずは総会の活性化を

5月14日(土)に、恵那峡ランドホテルにおいて、平成23年度の同窓会役員会並びに総会・懇親会が行われた。

役員会並びに総会においては、平成22年度事業報告及び決算報告、並びに平成23年度事業計画及び予算の審議を経て、原案どおり承認された。

また、創立90周年式典を来年度に控え、周年事業についても審議がなされた。式典委員会、財務委員会等の各種委員会における討議を踏まえ、90周年式典の実

施に関する各種の審議が行われた。主たる周年事業として、トレーニングルームの建設が決定された。また、当日の記念式典においては、同窓生に対するホームカミングデーの実施をすることなどが決定された。

懇親会は、周年事業の実施に向けて112名の参加を得て、盛大に実施された。恵那市役所の市川太一氏によるテノール独唱で開幕し、その後懇親会が行われ、盛会のうちに総会が挙行された。



各支部各回同窓会あれこれ

③

恵那城陵会総会

平成23年2月11日(金) 16時30分から、「恵那峡グランドホテル」において、総会が開催された。提案のあった議事は、滞りなく承認された。

その後、当番幹事高31回生の運営のもと、懇親会へと移っていった。会に先立って、来賓として岐阜県教育委員会教育次長 林俊彦氏(高23回)の基調講演が行われた。

懇親会のアトラクションとして、斉藤順子氏(高31回)の「ソプラノコンサート」が行われ、華やかな幕開けとなった。

同窓生140名を超える大懇親会は、水野正敏県議会議員(高29回)の乾杯の音頭で始まり、盛大な会となった。会の終わりは、恒例の「大会の歌(城陵歌)」を全員で熱唱して閉会した。



土岐市城陵会総会

平成22年6月13日(日) 17時から、土岐市「竜庵」において、「第18回総会」が開催された。今年度の会務報告・会計報告の後、役員が改選され、会長は戸谷仁彦氏(高13回)から三宅重幸氏(高10回)にバトンタッチされた。

その後引き続き、「女性に多い骨粗鬆症」と題して、山村医院院長 山村武一氏(中24回)の講話が行われた。予定された講話は、機材の不調により急遽内容が変更され、健康的な生活を送るための知恵や体操などを説明していただき、参加者にとって楽しい一時となった。

恒例の懇親会は、40名あまりの参加があり、互いに懇親を深め、和やかな雰囲気の中に閉会した。

東京城陵会総会

平成22年5月9日(日) 12時から、日比谷「松本楼」において「第13回東京城陵祭」が開催された。

伊藤忠生会長(高4回)のもとに、中11回生〜高20回生までの同窓生が120

名を超えて集い、盛大な会が執り行われた。

今回をもって伊藤忠生会長が勇退され、後任の会長として高井幸弘氏(高10回)が、会の承認を得て就任した。

なお、東京城陵会は、銀座の「ライオン」で毎月定例会を行って、会員相互の懇親を深める機会を継続的に設けている。



中津川恵那高会(恵蘇会)総会

平成22年11月13日(土) 18時から、中津川駅前「勝宗」において「第58回総会」が開催された。

勝野勲彦会長(高17回)の挨拶の後、会計報告などが行われた。引き続き懇親会が行われ、30名を超える参加者が和やかに歓談をしながら、楽しい一時を過ごした。

最後の締めは、「大会の歌(城陵歌)」を熱唱して閉幕となった。



名古屋恵那高会総会

平成22年11月19日(金) 18時から、「名鉄ニューグランドホテル」において「第55回総会」が開催された。

各務芳樹会長(中18回)の挨拶の後、会計報告・監査報告が行われ、それぞれ承認された。またその場で、新しく会長として榎原章夫氏(高11回)が選出された。

引き続き懇親会が開かれ、久翁正倫氏(中23回)の乾杯の音頭で会は始まり、50名を超える参加者を迎えて会は盛会であった。会の中締めをした後に、全員手をつなぎ「見よ燦然と」を熱唱して散会となった。



瑞浪恵那会総会

平成22年10月31日(日) 19時から、「地域交流センターときわ」において、7年間活動を休止していた「瑞浪恵那会」が再興された。会長には瑞浪市長水野光二氏(高24回)が就任し、役員も新たに選出され、創立90周年に向けた、地元と同窓会の支部の復活には大きな期待が持たれている。



高7回生親睦旅行

平成22年10月に、56年ぶりの修学旅行として、西伊豆へ一泊旅行をした。

バスで恵那から春日井まで各地で乗車し、柿田川・土肥などを見学し、堂ヶ島で宿泊した。東京や神戸から直接現地に参加した者もあり、総勢34人であった。

バスの中やホテルでは話が弾み、宴会では全員の3分間スピーチに耳を傾け、校歌や応援歌を歌い、大いに盛り上がった。好天に恵まれ、夕日の美しさに感動し、富士山は

ちよっぴりだったが、楽しい旅ができた。



高21回生還暦同窓会

平成23年1月2日(日) 12時から、「恵那峡グランドホテル」において、今年度還暦を迎えた21回生が学年同窓会を開いた。

開会セレモニーの中で、当時在職された水野恭平・柴田 満・西尾克臣・松田治道・林 勝之の各先生方のお言葉が約1時間、アトラクションの演奏が約1時間と、その後会は大いに盛り上がり、終了したのは16時30分であった。

会には同窓生85名が集い、今年度をもって定年を迎える節目の年の再会に、話題は尽きることなく、盛会のうちにお開きとなった。

